



2008年8月1日

横浜松坂屋本館についての見解

日本建築学会関東支部
建築歴史・意匠専門研究委員会
主査 大橋竜太

横浜市中区伊勢佐木町1丁目5番に所在する横浜松坂屋本館は、大正10年（1921年）に創建を見たものであり、関東大震災の後も創建時の躯体を残しつつ、昭和4年（1929年）、同9年（1934年）、同12年（1937年）の3度の大規模増改築によって今日見る伊勢佐木町通り側の外観の完成を見たものである。昭和12年の増築は昭和9年の増改築の意匠を踏襲したものであり、また戦後の昭和37年（1962年）と同38年（1963年）にも背後の福富町東通り側に相当規模の増築が見られるが、外観の主部分は昭和9年に形づくられたものと見なされる。そして、野澤屋呉服店から野澤屋、ノザワ松坂屋、横浜松坂屋と名称を変えながらも、この昭和9年の外観が伊勢佐木町のシンボルのような存在として広く人々に親しまれ続けてきたことになる。

創建時の設計者は出浦高介であるが、昭和4年、9年、12年の増改築の設計者はいずれも鈴木禎次（1870-1941）であり、したがって今日の外観を決定したのは鈴木ということになる。鈴木は長年にわたって名古屋高等工業学校建築科長を務め、退官後は名古屋に設計事務所を設けて各地の松坂屋本・支店をはじめ多くの作品を設計しているが、横浜松坂屋は彼の晩年の大作であり、彼の代表的な現存作品ということになる。施工は創建時以来、一貫して竹中工務店である。

横浜松坂屋本館は鉄筋コンクリート造7階建て、地下1階、塔屋付き、建築面積3212.83㎡、延床面積21597.50㎡の建物である。その外観の最大の特徴は、全面が白い四丁掛のタイルで覆われ、かつ要所にきわめて濃密な意匠を施されたテラコッタが配されていることである。その意匠は、わが国のアール・デコの代表例とも見なしうる。

横浜松坂屋本館は横浜の戦前のデパート建築を文字通り代表するものであり、わが国の昭和初期のデパート建築を代表するものの一つでもある。教育者としても建築家としても日本の近代建築史に大きな足跡を残した鈴木禎次の晩年の大作であり、彼の代表作品でもある。もちろん伊勢佐木町の中心施設であり、その都市景観上の重要性をはじめ横浜の歴史に占める重要性は計り知れない。

なお、この建物は『日本近代建築総覧』（日本建築学会、1980年）をはじめ、多くの文献にとりあげられており、広く人々に知られている。平成2年（1990年）には横浜市教育委員会文化財課によって実測調査が実施され、その成果は『横浜の近代建造物——横浜市近代建造物調査報告書』（横浜市教育委員会、1994年）に収載されている。また、平成16年（2004年）には、横浜市の歴史的建造物に認定されている。